

～鹿児島で世界を語ろう～

第30回 外国人による 日本語スピーチコンテスト



公益財団法人鹿児島県国際交流協会

鹿児島県在住の外国の方に、日本語で意見を発表する機会を提供することで、外国の方の日本語能力の向上を図るとともに、鹿児島の国際化を考える上で、国籍や文化の違いを越えた相互理解・国際交流を深め、多文化共生の社会づくりを目的として、「鹿児島で世界を語ろう! 第30回 外国人による日本語スピーチコンテスト」を実施しました。

今回は、10ヵ国・地域30名の県内在住の外国の方から応募があり、その中から、8ヵ国・地域10名の皆様が本選でスピーチを行いました。発表スピーチの内容を御紹介いたします。

令和7年1月25日(土)
鹿児島県歴史・美術センター黎明館
講堂
(御来場者数：223名)

開会

主催者あいさつ 公益財団法人鹿児島県国際交流協会 理事長 岩元 文雄

スピーチ発表

審査結果集計

審査結果発表

表彰 最優秀賞・優秀賞・奨励賞・審査員特別賞

講評 志学館大学 教授 勝田 順子

閉会

審査員(敬称略・順不同)

勝田 順子 (志学館大学 教授)

土井 克己 (鹿児島県立短期大学 教授)

高島 まり子 (鹿児島ユネスコ協会 常任理事)

中尾 成昭 (鹿児島国際化推進協議会 会長)

川口 智子 (南日本新聞社 編集局ひろば室兼編集委員 室長)

岩切 剛志 (かごしま県民交流センター 館長)

松下 正 (公益財団法人鹿児島県国際交流協会 専務理事)

各賞受賞者

《最優秀賞》

コディカラ アラチラゲ デイルキ プンヤジャ 着物との出会い

《優秀賞》

オリ パルバティ 日本のお母さんたち

タパ プラビン おぎおんさあを体験して

ダン ミン ヒエウ 日本語の独特な表現

《奨励賞》

カムワ カムデム ルベン 困難の中に強さを見出す

マルドナド マリルズ 人生は、挑戦することが大切です

タイ テイ サム 出会うの国、日本

クラーク リカード シンタロウ 将来の夢

ノ ミ ミ ゾ 人生色々

リュウ ユナ どんなに時が過ぎても変わらないもの

《審査員特別賞》

ノ ミ ミ ゾ 人生色々

【最優秀賞】



氏名 コディカラ アラチラゲ
ディルキ プンヤジャ
国・地域 スリランカ
在日期間 1年7か月
所属 神村学園専修学校

着物との出会い

「ディルキさん、着付けをしてみませんか」と学校の先生に誘われました。はつきり断らないうちに、先生に着付け教室に連れて行かれて、その時、初めて着物の先生と会いました。先生はとても優しく、優しければ優しいほど、私は緊張して怖くなってしまいました。着物の先生は、「2か月後に九州大会があるから頑張りましょう」とおっしゃりながら、私に大会の申込書を渡されました。私は「無理でしょ」と思いましたが、申込書に名前を書いて、着物を着せられて、申込書に貼るための写真を撮られました。これが私と着物との出会いでした。

それから週3回、着付けの練習をすることになりました。練習の日はいつも着物の先生が寮に迎えに来てくださるので、逃げられないと思いました。最初はなかなか覚えられなくて、見るだけでも難しいと思いました。一番覚えにくかったのは着物を着る時に使う物の名前です。例えば、^{こしひも}腰紐や^{だてじ}伊達締めや^{たび}足袋。それから、着物の畳み方も難しかったです。

私が最初に練習したのは^{はかま}袴の着付けです。それは日本人が大学や専門学校を卒業する時着る物だと先生が教えてくださいました。先生も私と一緒に着物を着ながら教えてくださいました。その教え方は、私が今まで経験したことのない、とてもいい方法だと思いました。大会前は、ステージの上で音楽に合わせて、鏡も見ないで8分で袴を着るなんて無理だ、それに審査員も見ているなんて怖いと思っていたのに、練習を始めて2か月後の一昨年の11月、九州大会で外国人の部で2位になり、入賞したら「嬉しくてやめられない、世界大会に行きたい」と思いました。

私が今、勉強している学園には中学生や高校生もいます。みんな自分の好きな事や興味のある事を一生懸命やっていて、とても羨ましいと思います。スリランカでは決められた学校の勉強だけして、自分の興味のある事を一生懸命している生徒はあまりいません。私もそうでした。日本に来て初めて、こんなに夢中になれることに出会って、私の人生は豊かになりました。日本での留学生活は勉強とアルバイトで毎日忙しくて、ストレスがたまることもありますが、着付けを練習

する45分ぐらいの間は、いつの間にか、私にとってストレス解消の時間になりました。初めは無理だと思っていた着物が今では私の大事な友人になり、着付けをしている時間は私の大好きな時間になりました。

九州大会の後は世界大会に出るために、^{ふりそで}振袖を着てふくら雀という新しい帯の結び方を練習しました。袴よりもっと難しかったですが、先生はいつも迎えに来て着付けを教えてくださいました。そのお陰で、去年の9月に東京で行われた世界大会で2位を受賞することができました。

私は着物に出会って、何でも自信を持ってやってみたらできるということが分かりました。次は日本文化の茶道にチャレンジしてみるつもりです。先生から着付けをしてみませんかと言われた時、断ることができずに「はい」と答えたのは、本当に私のために良かったです。これからも自信を持って、最初は出来なくても何度も挑戦しようと思っています。

皆さんも私の話を信じて、「無理でしょ」と思ってもやってみてください。きっといい出会いがあるはずです。



【優 秀 賞】



氏 名 オリ パルバティ
国・地域 ネパール
在日期間 1年8か月
所 属 神村学園専修学校

日本のお母さんたち

もし、自分の母親より年上の女性を呼ぶとき、あなたは何と呼びますか。「すみません。そこのあなた。」ですか。それとも「すみません。」だけでしょうか。もし名前を知っていたら「すみません。〇〇さん。」と言いますか。私の場合はこう呼びます。「すみません。お母さん。」

私の国ネパールでは、自分より年上の人に対して名前で呼ぶのは失礼だといわれていて、自分の母より年上の女性にはお母さんの意味を込めて「アンティ」と呼びます。ですから、日本でもそれと同じで「お母さん」と呼んでいるのだろうと思っていました。

初めて買い物に行った時、自動精算レジの使い方がわからなかったので、隣にいる女性に、「すみません。お母さん」と言いましたが、気づいてもらえませんでした。私は女性の近くに行ってもう一度「すみません。お母さん」と言ったら、「え・・・私を呼びましたか？」と言いました。そのとき、「あれ？日本ではお母さんと呼ばないのかな？」と考えましたが、反応してくれたのでその時は大丈夫かなと思っていました。

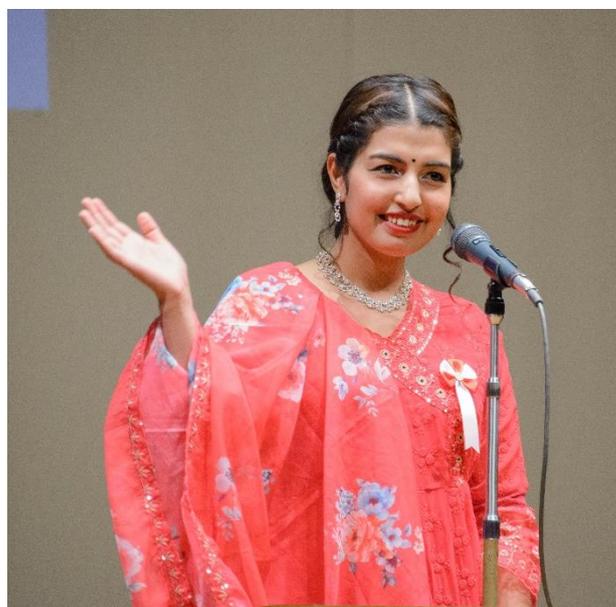
それから数か月が過ぎ、A コープというスーパーでアルバイトを始めました。はじめて一緒に働く女性たち会ったときに、「オリ パルバティです。よろしくお願いします。お母さん」とあいさつしました。あいさつが終わった後、店長さんから「一緒に仕事する人にお母さんと言うのはだめだよ。お客様の前では名前でご呼んでください。」と言われました。最初は「名前で呼ぶのは失礼だ」と思っていたのですが、「いえいえ、ここは日本です。これから日本で生活していかなければならないから考え方を変えよう」と思うようになり、メモした名前を覚えようと何度ノートを見返したり、口に出して覚えようと一生懸命努力したりしました。でも全然覚えられません。名前を覚えても顔と名前が違います。

1週間後、レジで静かに仕事をしている私を心配して、隣のレジにいるKさんに「いつも元気なのに今日は静かですね」と言われたので、店長さんとの会話や日本人の名前がなかなか覚えられないことを話すと、「大丈夫、大丈夫。誰にも気

づかれずに静かにお母さんと言ってね」と言ってくれました。私は嬉しくなって「はい。ありがとうございます。お母さん」と大きな声で返事をしました。そのとき周りのみなさんが笑っていたので、私はとても恥ずかしかったです。それから、なんとか一緒に働くスタッフの名前を覚えて、お客様の前では「〇〇さん」、休憩や仕事以外では「お母さん」と使い分けられるようになりました。

今、私にはたくさんのお母さんがいます。アルバイトのお母さん、いつも私のレジで買い物してくれるお母さん。シェアハウスのお母さん、近所のお母さん、数えただけでも100人以上のお母さんがいます。私は日本にいる間に、1000人以上のお母さんと出会って仲良くなりたいです。あともう少して鹿児島を離れて福岡に進学しますが、成長した姿をお母さんたちに見せてあげられるように、一生懸命努力してまた鹿児島に帰ってきたいです。

そのときまで待っていてね。お母さん。



【優 秀 賞】



氏 名 タバ プラビン
国・地域 ネパール
在日期間 1年5か月
所 属 九州日本語学校

おぎおんさあを体験

「おぎおん祭」は、400年前から続いている祭りです。幸運の神様へ「悪いことを追い払い、商売がはんじょうすること」を祈る祭りで、鹿児島では「おぎおんさあ」と親しまれているようです。私の学校から参加した8名は、3番天文館みこしのメンバーで、外国人で初めての参加と言われました。

学校では、先生から「暑さ対策のため、今年からははだかではなくて、はっぴを着るよ。よかったね。」と聞いていました。でも、集合場所の天文館公園へ行っただけで、もうびっくりしました。150名余りの男の人たちが、パンツをぬいで、白い布を付けているのです。後ろからはおしりが見えていました。「ええ？何しているの？どうしてパンツをぬぐの？」「まさか、ぼくたちも・・・？」すると、年配の男の人が、「これは、日本の祭りの伝統だから、皆さんも着ますよ。」と言いました。そんなことは、聞いていなかったもので、困りました。もう、帰りたくなりました。なのに、なんと、仲間の一人が脱ぎ始めたのです。「ああ、もう仕方ない！ぬぐしか無い！」と目を閉じて脱ぎました。とっても恥ずかしかったです。こんな体験は、もちろん初めてですから。男の人が、白い布をまいてお化粧もしてくれました。どうして、パンツをぬいで、白い布をまくのだろうかと思いましたが、はっぴを着ると、おしりがかくれたので、ほっとしました。

その後、八坂神社へ行きました。「ソイヤ、ソイヤ」という掛け声を教えてくださいました。「ソイヤ、ソイヤ」は、意味は分かりませんが、何回も言っているうちにおもしろくなりました。

本番が始まると、道路には、たくさんの人達が見に来ていました。みこしは、とても重くて、肩が痛くなりましたが、みんな大きな声で「ソイヤ、ソイヤ」と頑張っているのだから、私も他の人に負けないようにと「ソイヤ、ソイヤ」とお腹に力を入れて言いました。すると、力も湧いてきました。あの白い布のことは、すっかり忘れて、夢中になっていました。150名が一つになって、重いみこしをかついでいることが、だんだん楽しくなってきました。とても暑かったですが、お店の人たちが、ホースで水をかけてくれ、とても気持ちよかったです。終わっ

た後、天文館公園で弁当を食べました。日本人も私たちも同じ仲間だという一体感とカいっぱいやったという達成感で、弁当が本当においしかったです。

寮に帰って、あの白い布のことを調べました。それは、「ふんどし」と呼ばれ、昔の日本の男の下着で、今では祭りではなく物になっているそうです。神様に対して、うその無いピュアな気持ちで向き合うためにはくそうです。「そうだったのか。まじめな日本人らしい伝統なんだなあ。」と思いました。

私の母国、ネパールにも祭りがたくさんあります。ダサインやティハールなどの大きな祭りの時には、それぞれが新しい服を着ます。でも、日本ではみんなが同じはっぴを着ますので、一体感が出てきます。また、ネパールの祭りは長い時間、家族や親せきや友だちと食べ放題、飲み放題、踊り放題です。でも、日本の祭りは、短い時間で、「ソイヤ、ソイヤ」と一気に盛り上がり終わります。国が違うと祭りのやり方や意味や歴史が違うことを学び、日本の祭りへの興味が深まりました。

「ふんどし」をはき、「ソイヤ、ソイヤ」と真剣にかついだからこそ、日本の祭りのよさが理解できたと思います。4月からは、東京に住みますが、渋谷おはら祭りやいろいろな祭りがあると聞きました。祭りが大好きな私は、東京でどんな祭りを体験できるでしょうか。わくわくしています。

ご清聴、ありがとうございました。



【優 秀 賞】



氏 名 ダン ミン ヒエウ

国・地域 ベトナム

在日期間 6か月

所 属 九州日本語学校

日本語の独特な表現

皆さん、こんにちは！

皆さんにとって日本語の一番面白いところは何ですか。難しさ？漢字？イントネーション？慣用句？それらは、本当に面白いですよね。でも、もっと面白いところはありませんか？このスピーチを初めて書く時に、いろいろ考えました。日本語にしかないもので、私が日本語をもっと好きになったものです。それは、日本語の独特な表現です。

大学一年生の時、日本語を勉強し始めた時です。私にとって日本語は簡単すぎるように思えました。私はいつも「こんな簡単なこと、公式を暗記して組み立てるだけでいいです。」と、思っていました。しかし、私のこの考えは多くの愚かな間違いを引き起こしました。その時の印象に残ったことを二つお話したいと思います。

ある日、私はニチカという日本人の友人と話していました。ニチカさんは、最近家で飼っている猫のことを話してくれました。あの時「猫が可愛でしょう。」と言って欲しかったようです。私が学んだことによると、現代日本語では、動詞や形容詞の後ろに「～そう」の助動詞を付けることで、「～のようすだ」「～と思われる」の意味を作ることができますから、私は「その猫は可愛いそうね。写真を見せて。」とニチカに行ったとたんに、彼女は突然笑い出して「可愛そうじゃない。可愛いなあですよ。」と言いました。この時点で私は「ああ、可哀そうは、その対象が哀れである様子を示す言葉ですよ。恥ずかしい～。」と言いました。その時、日本語の表現は間違いやすいと思いました。

もう一つは、三年生の夏休みに、初めて日本食店でアルバイトをした日、仕事が終わって帰る時のことです。店長さんに「お疲れ様、気をつけてね。」と言われました。「お疲れ様？あれ、私が疲れてる？明日はもっと元気を出さなくちゃ。」と思いました。次の日、元気よく大きい声で「店長、さようなら。」と言ったら、また同じ返事でした。「なんで、まだ元気が足りないのかな。」と思いました。そこで、その日は笑顔で「今日は本当に楽しかったです。全然疲れませんでした。」

と言いました。店長さんはまた「それはよかったです。お疲れ様。」と言いました。「何これ？全く意味分からない。私はそんなに疲れているように見えるのかな？」後で日本人の友達にそのことを話したら、彼女は笑って「それは日本語の表現だよ。相手をねぎらう意味で言うんだ。」と説明してくれました。なるほど！ベトナム人にとってアルバイトや仕事はもちろん給料をもらうために働くことです。ですから、「お疲れ様」は言いません。「バイバイ」です。一方、日本人は同じ時間を過ごした他人にねぎらいの言葉をかけるのだそうです。「バイバイ」じゃなくて「お疲れ様」って温かい気持ちになりますよね。

今まで日本語を勉強しているうちに、暗記に限らず、場合に応じて正しい表現を使用する必要があることを知りました。その上、言葉や文法ばかりではなくて、表現から文化や人間性についても勉強できることも知りました。これこそが日本語の一番面白いところだと思います。新しい言語を学ぶことは、豊かな文化や考えを体験するための扉を開きます。したがって、新しい言語を学ぶことは、まるで、もう一つの人生を生きるようなものです。私は、これからも日本人の他人をねぎらう温かい言葉、そして、その背景や歴史についても更に深めていきたいです。



【奨励賞】



氏名 カムワ カムテム ルベン
国・地域 カメルーン
在日期間 1年7か月
所属 鹿児島工業高等専門学校

困難の中に強さを見出す

みなさんは「レジリエンス」という言葉を聞いたことがありますか。

私は、今年の夏休みまで、この言葉の意味をまだ十分にわかっていませんでした。では、今年の夏、何が起きて「レジリエンス」ということばの意味がわかるようになったか、お話をさせていただきます。

私はカメルーン出身です。カメルーンは、アフリカ大陸の中央の西側にあります。日本から飛行機で32時間かかる、とっても遠い国です。そんな遠い国から日本へ来て、1年7か月が経ちました。その間、一度も帰国したことがなく、アニメや日本食など、日本の生活を楽しんでいました。

しかし、いくら日本が好きでも、やはりホームシックになる日が来ます。そこで今年の1月から、夏に帰国するための貯金を始めました。家族に夏休みの帰国を伝えると、みんな「楽しみに待っているよ」と言ってくれました。夏が近づいてきて、航空券の購入、パスポートやお土産など必要な準備をしました。日本を出発する当日、朝早く空港へ向かいました。

ところが、チェックインカウンターで「あなたはこの飛行機には乗れない」と言われました。必要となるトランジットビザが一つなかったのです。「トランジットビザ」というのは、国際線の乗り継ぎをする、空港の中を移動するのに必要なビザのことです。

みなさんは、こんな時どうしますか！！

たくさんのお土産や高い航空券を買って、朝早く空港へ行って、そして何より家族全員が私の帰国を楽しみに待っているのに・・・一瞬、頭が真っ白になりましたが、その場で解決方法を一生懸命探しました。しかし、そのビザの手続きには1か月ぐらいかかるし、夏休みはあと4週間弱しかないし・・・私は泣く泣く航空券をキャンセルし、帰国をあきらめました。スーツケースとお土産の入った荷物を横に置いて、私はしばらく空港のベンチに座っていました。

このつらい経験から一つの重要なことを学びました。それが最初に話した「レジリエンス」です。レジリエンスとは、困難や挫折などに直面した時、それに対

応する能力のことで、その不利な状況から学んで、より成長することです。

もちろん自分の力だけで回復するのは、難しいです。この時、私はひどく落ち込んでいましたが、家族や友人、日本の保護者にたくさんサポートしてもらいました。国の家族に帰国できないことを電話したら、とてもがっかりしていましたが「帰るのは、いつでもできるから」と、はげましてくれました。翌日、鹿児島に帰ったら、偶然知り合いの日本人家族から連絡があり、予定になかったホームステイをすることになりました。その家族といっしょに登山したり、日本料理の作り方を習ったりして、楽しく過ごしました。また、時間ができたおかげで、興味のあるメカトロニクスという工学分野のことを色々調べることができました。結果、つらい夏休みは、思いがけなく楽しい夏休みになっていたのです。

帰国できなかったことは、本当にショックでしたが、気持ちを切り替えられたことで、残りの夏休みを有意義に過ごすことができました。もし私がつつ状態のままだったら、これらの素晴らしい体験はできなかったでしょう。

日常生活では、物事が計画通りにならないことは、よくあります。試験勉強をがんばったのに不合格、好きな仕事に応募しても不採用、彼女にプロポーズして断られる、など。しかしこのような逆境の中でも、レジリエンスを使って乗り越えれば、良い結果につながると、この夏、私は自分の経験を通して学びました。これからも様々な困難を、レジリエントな精神で粘り強く切り抜け、好きな機械工学の勉強を続け、将来、人々の役に立つ機械システムを作りたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。



【奨 励 賞】



氏 名 マルドナド マリルズ
国・地域 アメリカ
在日期間 1年8か月
所 属 株式会社インタラック西日本

人生は、挑戦することが大切です

皆さん、こんにちは。

マルドナド マリルズと申します。鹿児島県に2年間住んでいるアメリカ人です。

私には人生のモットーがいくつかあります。一日一回笑うこと自分自身を大事にすること誠実に生きることです。その中でも私が一番大切にしているモットーについて話したいと思います。

「人生は、挑戦することが大切です。」子供の頃から、母はいつも私たち姉妹のために新しい経験をするのを勧めて、地元の様々なイベントに連れて行ってくれました。そこで新しい文化をしり、たくさんの素敵な人々と出会いました。面白い経験を通して、色々な素晴らしい思い出を作ることができました。

現在、世界一の美しい夕陽を見られて美味しいジャガイモ、^{ぶり}鰯、みかんを食べられて親切な人と会える長島に住んでいます。長島の人口は約9600人です。住民の中には聴覚に不安を抱えている方もいます。そのため、町の役場は手話の入門講座を提供しています。この講座の目標は、島内の聴覚障害者コミュニティの人々のために、手話の学習に対する周囲の人々の関心を高めることです。この講座を受ける人は、^{ろうしゃ}聾者と友達になり、彼らを支援するのに役立つ日常会話のスキルを身に付けることができます。

さらに、たくさんの人と会話ができるようになりたいと思い、この手話の講座に参加することにしました。最初はすべて日本語で行われるクラスを受けることに不安を感じていましたが、手話の先生は私を励まし、辛抱強く接してくれました。6月から毎週水曜日の夜に手話を使ったコミュニケーションを教えてくださいました。その中で、手話の歴史、時代や地域によって手話が違うという事を知りましたが、デジタル端末の利便性の発達により、イベントを通じて聴覚障害者コミュニティが今までどのように繁栄してきたかについても教えてくださいました。自身も聾者である先生の情熱的な教えのおかげで通訳者、クラスメイトと手話で色々な会話を話すことができるようになってきました。

それから手話の講座を受講しながら、日常生活の交友関係を増やすことができました。手話の講座を一緒に受講する同僚に朝の挨拶を3つの言語でしています。日本語で

「おはよう」英語で “Good morning” 手話で /おはよう/と言います。もうすぐ手話の発表がありますが、職場で一緒にたくさん練習しています。また、他の同僚にも学んだ手話を教えています。同僚の手話を学ぼうとするやる気に私も嬉しくなります。

こんな経験ができるとは思っていませんでした。海外で手話の講座を受けるのも不安でしたし、この日本語スピーチコンテストも最初は不安で迷いました。しかし、これも一つの挑戦だと思って参加を決めました。この経験がなければ、今の自分も、なりたい自分にもなれなかったでしょう。自分の行動によって、他の人が色々な経験をする勇気を持つきっかけになったら嬉しいです。

皆さん、「人生は、挑戦することが大切です。」

聞いてくれてありがとうございます。



【奨 励 賞】



氏 名 タイ テイ サム

国・地域 ベトナム

在日期間 8か月

所 属 赤塚学園美容・デザイン専門学校

出会いの国，日本

私は今年の5月に初めて日本に来ました。元々留学の目的は日本語がもっと上手になりたいということだけでしたが、実際に来日して、それ以上の宝物を得られました。なぜなら、日本は出会いの国だからです。ここに来て、日本人だけではなく、多くの外国人にも出会いました。彼らは私のように、インド、スリランカ、ネパール、ミャンマー、中国、台湾、バングラデシュ、アメリカなどとても遠いところから来ています。その中で、日本語がすごくうまい人もいるし、ちょっとしかできない人もいるし、英語だけを話す人もいますが、みんな、私と同じく日本が好きで日本に住んでいます。

先日、鹿児島島の六月灯というお祭りで台湾人の友達に出会えました。彼は、中国語はもちろん、英語も上手で、さらに日本語もできます。とても素晴らしい人です。私は英語があまり話せないのですが、私たちの共通語は日本語です。ある時、彼と一緒に散歩している時、ふと私は考えました。どうして、台湾人とベトナム人が日本語で喋っているのか。なんだか不思議です。日本語を勉強して、日本に来て、台湾人の友達ができるなんて、母国にいた頃は、夢にも思わなかったです。このような経験のおかげで、私は複数の文化の視点で、物事を見たり考えたりできるようになりました。

他にも、私に起こった面白いことをお話しましょう。私は、よく日本人に間違われます。ある日のこと、タイヨースーパーで買い物をしていたら、外国人の男性に「すみません、服の洗剤はどれですか？」と、外国人らしい日本語で聞かれました。私は「私もよくわかりませんが、今これを使っています」とほほ笑んで答えました。自分も外国人なのに、日本で学んだことを活かして他の外国人を助けることができ、とてもうれしかったです。私は後で、“I am also foreigner like you” と付け加えました。すると男性は、“You look like Japanese girl and you so beautiful, thank you so much” と、驚きながらも、笑顔でそう言ってくれました。初めて日本人の立場になって外国人と日本語を話す、それはとても新鮮な体験でした。

あともう一つ、日本に来て気づいたのは、日本人でもわからない日本語もあるし、時々間違った日本語を使うということです。私はイタリアン・レストランでバイトをしています。アンチョビアンドブラックオリーブやクワトロフォルマッジピザなど、店のメニューはほとんどがカタカナで書かれているので新しい日本人スタッフも私と同じ様に、勉強しないと覚えられないです。だから、私たち外国人は、間違いを恐れずに、話したいことを頑張って最後まで伝えましょう。

言語はあくまでもコミュニケーションのための道具です。日本語でも英語でも、何語でも、もし言葉が分からなければ、表情やジェスチャーだけでもいい。まず一番大切なのは、相手に自分の気持ちが伝わるように、何かしらの手段を使って伝えようとするということです。外国人でも、日本人でも、それぞれが持つその道具で、ありのままに気持ちを伝えれば、きっと私たちの心は国や文化を越えて繋がります、友達や仲間になれるでしょう。

五か月前に来日したばかりの私は、日本に知り合いが一人でもいませんでした。今は学校の先生、クラスメイト、寮の友達、バイトの同僚、マネージャー、と多くの人に出会えました。私のことを知ってくれて、私の名前を呼んでくれて、仕事を任せて、私と話してくれて、本当にありがとうございます。そのおかげで海外での生活はもう寂しくありません。毎日、本当にキラキラした日々を過ごしています。ここ鹿児島の皆さまで出会えたおかげで、私は幸せです。

日本は私にとって本当に出会いの国です。今日この会場に足を運んでくださった皆さんにも、感謝を伝えさせてください。

私の気持ちは皆さんに届いたでしょうか。 ご清聴、ありがとうございました。



【奨励賞】



氏名 クラーク リカード シンタロウ

国・地域 カナダ

在日期間 2年11か月

所属 鹿児島市立名山小学校

将来の夢

皆さんは、将来の夢を持っていますか？

もしかしたら、まだ持ってない人もいるだろうし、もう決まっている人もいるかもしれません。僕は夢を持つことが人生において、とても大切だと思います。夢があると、どんな難しいことにも立ち向かう力が湧いてきます。逆に夢がないと毎日の努力がただの作業になってしまうこともあります。

実は、僕の将来の夢は決まっています。それは、プロのサッカー選手になることです。では僕がプロのサッカー選手を目指そうと思った理由を聞いてください。僕は5歳の時に初めてサッカーをしました。その時、僕はカナダに住んでいました。

サッカーを始めたきっかけは、そのとき日本語を話せなかった僕を、両親がカナダにある日本語学校へ僕を入学させようとしていました。ですが、あまりにも僕の日本語のレベルが低かったため、僕は学校から入学を断られました。僕はとても悲しく、日本語を学ぶことを諦めようと思っていました。

しかし、両親が少しでも日本語でサッカーを教えてくれるサッカークラブチームを見つけてくれました。少しでも日本語に関わっていられることができたという両親の願いから僕はサッカーを始めることになりました。サッカーを練習している時は、もちろんコーチたちは日本語しか使いません。僕はまったくコーチが言っていることが分かりませんでした。だけど、僕はまちがいにサッカーの楽しさをそこで学びました。練習は週に1回でしたが、その練習が楽しみで仕方なかったです。そして日本語を学びたい、コーチが話せていることを理解したいという気持ちがだんだん大きくなりました。

こんな僕は日本にきて、とうとう3年目を迎えました。今でも週に3回のサッカーの練習と休みの日の練習試合に参加しサッカーを続けています。今では、このように日本語を話せるようになりました。日本に来た頃は日本語を上手に話せないし、周りの人が何を言っているのかわからないで、困ることが沢山ありました。悲しい気持ちになることもありました。でも日本に来てサッカーを通して、

友だちを作ることができました。友達、先生、家族 周りの人に支えてもらったおかげでぼくの日本語訳はどんどん上達することができました。

カナダで、日本語学校へ入学を断られ、日本語を話す事を諦めようとしていた自分に伝えたいです。諦めずに、挑戦し続ければ道はあらわれる。道は1本とは限らない。色々なアプローチの方法がある…諦めずにいたから今の僕があります。

僕の夢プロのサッカー選手という道のりはまだまだ遠いです。だけど夢へ向かってその可能性があるかぎり色々な道を進んで、チャレンジしていきたいです。もし僕が、プロのサッカー選手になる事ができたら、日本の子供達だけでなく色々な国の子供達にサッカーの楽しさを伝えていきたいです。

最後に僕の好きな言葉でこのスピーチを終わりたいと思います。僕の好きな言葉、それはスフィードです。スフィードは僕のいるサッカーチームの名前です。意味はイタリア語で挑戦です。

皆さんが自分の夢に向かって、諦めずに挑戦し、一步踏み出せる事を願っています。



【奨 励 賞】【審査員特別賞】



氏 名 ノ ミ ミ ゾ

国・地域 ミャンマー

在日期間 1年3か月

所 属 神村学園専修学校

人生色々

人生は、簡単なのか難しいのか、楽なのか苦しいのか。

皆さんが「人生とは、こんなにも複雑で決して簡単ではない」と初めて気づいたのはいつですか。私にとって、それは家族と離れて日本に来た時です。

家族と一緒にいた時、末っ子の私はみんなから甘やかされて、何でもやってもらって、悩みや心配は何もなかったです。日本のアニメが大好きで、最初に見た日本のアニメは『君の名は』。それから『鬼滅の刃』、『見える子ちゃん』、『ワンピース』・・・次々に見ていくうちに日本語を勉強したくなって、日本語を勉強していくうちに実際に日本に行き、日本語を使ってみたくになりました。

日本に来る前、両親から日本へ行くことを反対されましたが、「私はもう子どもじゃないから、自分のことは自分で守れるから心配しないで。」と言いました。母は「自分で何をしたことのないあなたが、自分のことは自分で守れるなんて簡単に言わないで。人生をそんなに甘く見てはいけません。」と言いました。父は「もし何か問題があっても、すぐ助けに行けないから、そんなに遠い所に行かないで欲しい。」と言いました。私は何度も「自分の事は自分でちゃんとして、日本で頑張るって、帰って来るから心配しないで。」と言いました。でも、両親が心配したとおり問題が起きました。日本に来て3ヶ月くらい経った頃、私は病気になってしまいました。そしてお医者さんから「手術しないとイケない」と言われました。その時、私は日本語もあまり話せなくて、家族も誰も居ない外国で手術するなんて、とても怖くて、両親の言うことを聞いておけば良かった。どうすればいいの。出来るわけがない。手術するなら国に帰りたい。泣きそうになっている私に、両親は「私たちの娘はこのぐらいのことで諦めないよ。絶対できるよ」と言ってくれました。私は覚悟を決めて手術を受けることにしました。

入院した部屋に、私のほかにおばあちゃんが2人居ました。私が挨拶したら、「あなたは外国人ね。手術するの？怖くないね？」と聞かれたので「怖くても心配しても手術しないとイケないので、しょうがないです」と答えたら、「ああ、そうね。でも外国で、一人で、えらいね」と言われました。私はかばんの中にたく

さん入れて来たお菓子をおばあちゃん達にあげました。後で先生に話したら「ノミさん、入院するのにお菓子持って行ったの？遠足じゃないんだから」と言われましたが、「入院して、こんな若い人からプレゼントをもらうなんて思ってもいなかった。」とおばあちゃん達は嬉しそうでした。私も、日本に来て手術なんて最悪と思っていたので、おばあちゃん達に喜んでもらえて気持ちが少し軽くなりました。夜になったら3人でおしゃべりしました。私の寂しさと不安はだんだんなくなっていきました。

手術は無事に終わり、その後はぐんぐん良くなって、今ではすっかり元気になりました。以前はできなかった学校の活動やボランティアにも出られるようになって、生活も楽しくなりました。もしあの時、日本での生活を諦めて、国に帰って手術していたら、きっと後悔したと思います。お金の問題で両親に心配をかけたかも知れません。

これから精一杯頑張って、いつか国へ帰ったら、人生はとても複雑で簡単に考えたらダメだということがわかって、お父さんとお母さんの娘は大人になったよと両親に伝えたいです。そして、人生にはいろいろなことがあって、諦めなければ、いいことに出会える、ということを教えてくれた両親のそばで楽しく過ごしたいと思います。



【奨 励 賞】



氏 名 リュウ ユナ

国・地域 中国

在日期間 1年11か月

所 属 鹿児島市立 名山小学校

どんなに時が過ぎても変わらないもの

こんにちは。私は、名山小学校6年の劉^{りゅうゆうな}優夏です。2023年の2月に日本に来ました。

私はこの2年間、日本語の勉強を頑張りました。昨年もこのスピーチコンテストに挑戦しました。その時はまだ自分の日本語の力があまりありませんでした。しかし、この1年、私は小学校生活最後の1年として、勉強だけでなく様々な体験をしながら、友達や先生に支えられ、成長することができました。特に、去年の夏休みに、久しぶりに中国に帰ったことで、私の中で様々な思いが生まれました。

今日はそのことをお伝えします。久しぶりに帰った中国は、変わっていました。私は幼いころから中国で育ったので、中国の食事や文化に慣れています。もともと中国はごみの分別などをしない国でした。だから街中もごみで汚いところばかりでした。しかし、分別がだいぶすすんできていて、環境もよくなってきているように感じました。とてもいいことだと思います。中国がよい方に変わっているのはいいことです。でも、変わってほしくないものもあります。それは2つあります。

一つ目は、中国の友達との友情です。私は中国で3つの学校に転校しました。私には1年生の時から一緒に、転校も一緒にした親友がいます。彼女とは、よくケンカもしました。でもすぐ仲直りして遊んでいました。誰かが私に嫌なことをしてきても、彼女だけはいつも味方でした。今回中国に帰った時に真っ先に会いたい人でした。

しかし、会うことはできませんでした。それは、彼女が中学入学を迎える前の軍事訓練があるからです。みなさんは、軍事訓練をしたことがありますか。私は4年生の時に経験しました。とてもきついです。日本にはない文化です。今回、親友の彼女には会えませんでした。日本から素敵なお文具のプレゼントを買って渡したかったけど、渡せませんでした。でも、私たちの友情は変わることはありません。これからも、日本と中国、離れていても変わることのないものです。

2つ目は、中国の素晴らしい文化です。私は、日本語教室の先生と水墨画^{すいぼくが}について勉強しました。社会科の歴史の中に出てきます。また、国語の「鳥獣戯画^{ちようじゆうが}を読む」という題材でも水墨画が描かれていました。中国から日本に伝えられた素晴らしい文化だということを知りました。ずっと昔から中国で描かれ続け、日本にまで伝えられた水墨画の素晴らしさに驚きました。図工の学習で、墨を使った作品を作る時も、「水墨画に関係するな。」と思いました。中国で生まれた文化が、こうして長い年月をかけて伝え続けられ、今、私のような小学生が勉強する中にあることは素晴らしいことではありませんか。私は、こうした中国の素晴らしい文化は決して変わることなく伝わり続けて欲しいです。

「どんなに時が過ぎても変わらないもの」それは、私にとって大切な友情や文化です。今年6年生として、金管バンドに入部したり、修学旅行、陸上記録会、名山探検隊、今まで経験したことのない素晴らしい経験をしたりすることができました。支えてくれたクラスの友だちや先生、ありがとうございます。名山小学校で過ごした素敵な経験や思い出も、「どんなに時が過ぎても変わらないもの」の一つになりました。



当日の様子



主催

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

後援

鹿児島県	鹿児島県教育委員会
鹿児島市	鹿児島市教育委員会
鹿児島商工会議所	(公社)鹿児島青年会議所
鹿児島国際化推進協議会	インドネシア日本かごしま協会
鹿児島県日中友好協会	鹿児島県日韓親善協会
鹿児島県マレーシア友好協会	鹿児島市日中友好協会
鹿児島スペイン協会	鹿児島日英協会
鹿児島日豪協会	鹿児島日独協会
鹿児島日仏協会	鹿児島日華親善協会
国立大学法人鹿児島大学	国立大学法人鹿屋体育大学
鹿児島国際大学	志學館大学
第一工科大学	鹿児島純心大学
鹿児島県立短期大学	鹿児島工業高等専門学校
学校法人赤塚学園	学校法人神村学園
学校法人九州総合学院鹿児島情報ビジネス公務員専門学校	
学校法人原田学園鹿児島キャリアデザイン専門学校	
九州日本語学校	
(株)南日本新聞社	NHK鹿児島放送局
(株)南日本放送	KTS鹿児島テレビ
(株)鹿児島放送	KYT鹿児島読売テレビ

協賛各社・各団体



鹿児島トヨタ



KOREAN AIR



弓場貿易株式会社
YUMIBA TRADING CO.,LTD.

(50音順)

ご協賛ありがとうございました。